

令和7年度 学校評価実施報告書

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月19日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①自ら課題を設定し、その解決に向けて主体的に探究することができる生徒の育成を図る。</p> <p>②グローバル化が進む社会で広い視野を持って協働して課題を解決できる生徒の育成を図る。</p>	<p>①バランスの取れた学力の育成と主体的な探究活動の実現、高い進路希望や多様な進路を実現する教育課程となっているかどうかを検証する。ICT利活用の環境を一層充実させ、学校DXを推進する。</p> <p>②国際社会でリーダーとして活躍できる人材の育成を目指し、学校として生徒に身につけさせたい能力を定め、推進に向けて組織的、継続的な授業改善を図る。</p>	<p>①教育課程の検証は教科意見や科目選択状況、進路希望調査、進学実績などをもとに、編成は適切か、目標達成は可能かの視点で行う。ICTが適切に活用できるよう、相談体制と管理体制を整備する。</p> <p>②現状を把握し、身につけたい能力を定める。その育成に向けて教科で授業について協議する。そのための授業改善は校内研修、授業実践、研究協議、授業評価などのサイクルで組織的、継続的に行う。</p>	<p>①教育課程が教科目標や生徒の進路希望を実現するものになっているか。ICTの利活用に向けて環境整備や研修は行われたか。端末破損や紛失などに適切に対応できる管理体制は整っていたか。</p> <p>②身につけさせたい能力は定まったか。それに向けた授業に関する協議は各教科では行われたか。授業改善は組織的・継続的になされていたか。</p>	<p>①教育課程の検証については、教科からの意見を集約し、単位数の変更や科目の統合などの改定を実施した。ICT機器の活用では管理簿を更新し、使用状況を正確に把握できるようにした。</p> <p>②アンケートや生徒による授業評価等を実施し、現状把握が進んだ。授業見学や研修、定期的な教科会等を実施させることができ、2回の研修会を実施した。</p>	<p>①受講が少人数の科目や他展開授業について生徒のニーズを踏まえながら検討を続ける。電子黒板を整備し、採点システムによるデジタル採点・返却について手順を整理する。</p> <p>②授業見学や教科会の実施については浸透が不十分であり、積極的に実施を整える必要がある。また研究授業の運営を改善したい。</p>	<p>・大学では探究活動を熱心に行ってきた学生は1/3に留まる。カリキュラム改善を継続してほしい。</p> <p>・電子黒板の利点は直接書き込めること。ぜひ生かして利用してほしい。</p> <p>・少ない負担で授業力向上を図れるよう授業見学への呼びかけは続けてほしい。</p> <p>・他教科見学は有益。</p> <p>・授業改善では保護者の意見も集約する。</p> <p>・グローバル人材の育成では校外にも目を向けさせてほしい。</p>	<p>①教育課程の検証が進み、修正も一部果たされているが、生徒の科目選択動向には今後も注視すべきだ。ICT活用は管理と同時に活用度の向上につながる工夫が必要だ。</p> <p>②適切なテーマで教科会や授業見学が活発となり、研究授業、研究協議の質が高まった。今後は授業改善をより主体的な取組みに変えていく必要がある。</p>	<p>①科目選択動向を踏まえつつ学習指導要領の改訂内容を情報収集し、教育課程の調整を行う。ICTの活用度向上につながる情報提供に努める。</p> <p>②新たなテーマによる授業改善を進める際は、広く意見集約し、各種データを活用して、生徒に身につけさせたい能力の明確化を図る。</p>
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①豊かな人間性や主体性、指導的役割が果たせる人格の育成を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりの適切な理解に基づく生徒支援体制と教育・健康相談の充実を図る。</p>	<p>①生徒会行事が生徒主体の活動となるよう生徒の運営をしっかりサポートし、リーダーシップを身につけ、今後社会で活躍できる資質や能力が備わるよう支援に努める。行事や活動についての広報に努める。</p> <p>②生徒が安心して学校生活を送れるよう、教育相談担当を中心に、校内の連携を強化するなど校内体制を整備する。またSC、SSWや地域とも連携して生徒のサポートにあたる。</p>	<p>①行事のテーマやルールづくりに主体的に関与させ、それに沿って企画、運営をさせる。安全、安心の徹底や防犯上の問題を意識させる。行事後はアンケートなどで課題を整理させ、次年度の改善を図らせる。行事等の様子はホームページに積極的にあげていく。</p> <p>②教育相談コーディネーターを中心に校内の生徒情報を適切、迅速に共有する。SC、SSWと協力してかながわ子どもサポートドックの取組を推進する。必要に応じて関係機関と連携し、円滑に調整を行う。</p>	<p>①生徒会行事の企画、運営にあたって実行委員会などがきちんと開催されていたか。企画やルールをつくる上で前年度の反省や課題をしっかりと踏まえたものになっているか。行事等の最新情報がホームページで定期的に更新されていたか。</p> <p>②支援が必要な生徒情報について校内で適切に共有することができたか。かながわ子どもサポートドックの取組などを通じてSC、SSWの活用は進んだか。関係機関との連携を取った場合、調整は円滑に行われたか。</p>	<p>①テーマやルールづくりに主体的に関与させ、それに沿った企画、運営に着手し、目標は概ね達成できた。安全、安心の徹底や防犯意識を向上させ、昨年度よりケガや事故等の件数が減り(例えば文化祭の生徒事故・ケガはゼロ件)、目標は概ね達成できた。</p> <p>②支援が必要な生徒の情報や、コーディネーターを中心に、当該学年だけでなく学校全体で共有された。かながわ子どもサポートドックは3年目を終え、学校として定着が図られてきた。</p>	<p>①生徒の主体性を育むには、取組や活動のアウトラインをしっかり設計し、教育効果を上げる必要がある。また安全対策を行うにあたっては、専門的な知識を取り入れ、学校全体に周知徹底を図る必要がある。</p> <p>②生徒支援の重要性がますます高まっているとの認識で対応に臨みたい。かながわ子どもサポートドックでは、プッシュ型面談がより円滑に進むよう、SCとの調整を重視して対応していきたい。</p>	<p>・生徒の自主性を育成するのは大事だが、人ひとりを適切に育むのは難しいだろう。中学でも本人の思いと現実のミスマッチが起きている。</p> <p>・文化祭のホームページが分かりづらく、情報が遅かった。</p> <p>・社会の風潮なのか、若者への眼差しが以前にも増して厳しくなっている。必要な生徒への適切な支援は十分行っていたきたい。</p>	<p>①生徒が主体的に活動に取り組むには教員によるきめ細かな準備や支援が必要であり、そのノウハウは備わりつつある。今後は主体性の中身を吟味し、将来に活かせる資質・能力を見定め、育む必要がある。</p> <p>②教育相談コーディネーターを中心とした支援の体制、かながわ子どもサポートドック活用の定着は図られてきた。SC、SSWの更なる活用が課題である。</p>	<p>①広報等にも関与させるなど生徒の主体的な活動の幅を広げ、生徒会行事の充実を図る。安心して参加できる生徒会行事を目指し、安全対策のルールづくりや安全体制の構築を図る。</p> <p>②教育相談コーディネーターと学年の教育相談担当、養護教諭が十分連携し、支援体制の整備を図る。SC、SSWの新たな活用を模索する。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月19日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①キャリア観の育成を通じて生徒自らが進路を開拓・選択する力を培うとともに、第一希望の実現に向けた指導、支援を充実させる。	①将来を見据えたキャリア観の育成と3年間を見通した進路指導計画に則って、組織的な進路指導体制を整える。生徒が自ら希望する進路を見出し、その希望する進路が実現するよう様々な手立てを実践する。	①1年生で行うキャリア教育に関するイベントの内容見直しや実施時期の整理などを通じてキャリア教育計画を再構築する。受験間近の3年生を対象に面接を行い、進路に対する不安などに対応する。小論文対策などをブラッシュアップさせ、総合型入試への生徒のニーズに応える。	①キャリア教育関連イベントの見直しは進んだか。3年生の面接や総合型入試への対応は進んだか。卒業時に行う進路指導の満足度や必要な力が身に付いたかを問う調査で、肯定的な回答の比率が85%を超えたか。	②「進路のしおり」を改訂し、キャリア教育関連のイベントの見直しや実施時期の整理等を通じて、キャリア教育計画を再構築した。受験直前の3年生に面接を実施して進路相談を充実させるとともに、小論文対策等をブラッシュアップし、総合型入試への対応を進めた。肯定的な回答は両問とも95%を超えた。	①生徒が自ら希望する進路を見出し、その希望進路が実現するよう、様々な手立てを見直し、より生徒の意識が高められるように改善を図る。増える年内入試に生徒が対応できるよう、情報提供や進路相談を充実させる。	・進学状況や調査結果と合わせると、先生方の取組みの工夫が実を結んでいると思う。	①3年間を通じたキャリア教育と3年生を中心とした進路支援の営みはともに適切な見直しが図られ、成果を上げている。昨今の入試傾向や志願状況を踏まえて、今後も柔軟な対応をしていく必要がある。	①昨年度の指導内容の見直しを検証することで、今後の進路指導をより効果的なものとする。キャリア教育関連のイベントの適正配置を今年度も続ける。
4	地域等との協働	①PTAや同窓会、地域との連携事業を通じて、生徒の社会参画意識を向上させ、地域とともにある学校づくりを推進する。	①主役である生徒達が地域等と関わり、成長や資質向上が遂げられることを目指す。地域貢献活動では公共機関との連携の比重を高めていく。連携に当たっては細やかな調整を心掛け、共存、共栄を図っていく。	①地域との連携では地域貢献活動の連携先に近隣小・中学校などの公共機関を開拓する。PTAとの連携では会費購入のAEDを活用した講習会やSNSでの情報発信などの活動を支援する。同窓会との連携では125周年記念事業を協力して実施する。連携を進めるにあたっては、報告、連絡、相談を的確に行って相互理解を深める。	①地域連携活動の連携先として小・中学校などの公共機関を新たに開拓できたか。PTAのAED講習会やSNSでの情報発信活動を支援できたか。125周年記念事業を同窓会と協力して実施できたか。連携を進めるにあたって報告、連絡、相談を的確に行うことができたか。	①地域貢献活動は連携先の新規開拓はできなかったが、横浜という地域の抱える課題を理解し、活動することで目標は概ね達成できた。PTA主催のAEDを活用した救命講習会を通じて、学校、保護者間交流が促進できた。保護者によるSNSを活用した情報発信の試みでは課題が見えてきた。125周年記念事業を通じて、多方面との関わりから相互理解の必要性が認識された。	①地域貢献活動では受け入れ態勢の整備や生徒の意識・行動を変容させる内容にするなど、指導も含めて今後着手すべき点はある。PTA主催のイベントについては、企画を変えての開催も検討されているが、参加規模に限りがあるため、保護者間の交流は限定され、情報交換もその場限りのものとなっている。	・地域貢献活動では自分で考えて行動する能動的参加の形態を提案したい。 ・地域との温度差など苦労も多いだろうがぜひこの地で貢献活動に力を入れてほしい。 ・今年度は学校と同窓会、PTAの協力体制が進んだ。 ・PTAとは何かをずっと考えている。保護者としてもっと学校を理解し、意見を出していくことが必要だろう。	①地域貢献活動は連携先の協力を十分に得て行うことができた。さらに効果を挙げるため、振り返りの充実を図る必要がある。PTAとの連携は活動内容の固定化を避けて、時代に即した見直しが進むよう協力していく。125周年記念事業を通じて地域等との協力関係は深まった。	①地域連携活動は探究学習の要素を持たせるなどで内容の充実を図る。PTAとの連携では、学校の現状や課題などを踏まえた活動内容の見直しに協力していく。地域等からの要請には教育資源活用の観点から、生徒に積極的な参加を促していく。
5	学校管理 学校運営	①大規模災害に備え、職員・生徒・地域が協力して行動できる体制を整える。 ②生徒と向き合う時間を確保するため、教員の働き方改革を推進する。	①大規模災害時の施設運用を想定するとともに、生徒にはいざという時に適切な行動がとれるよう訓練を工夫し、意識の向上を図る。 ②業務分担の偏りや長時間労働の是正に向けて職員が協力して取り組み、持続可能な指導、運営の体制づくりを進める。	①避難所開設に備えて適切な施設運用を想定する。生徒が危機意識を持てるよう訓練を工夫し、当事者として何ができるかをグループワーク等で意識づける。 ②職員は協力して業務の均分化に努め、誰もが容易に遂行できる業務を目指してマニュアル化や見える化、Teams活用を進める。管理職は勤務過多の職員を把握し、是正を働きかける。	①大規模災害を想定して、地域住民等に配慮した施設運用は想定できたか。実践的な訓練は行われたか。生徒が災害に対して当事者意識を持つことができたか。 ②業務の均分化は進んだか。マニュアル化や見える化、Teams活用が進み、業務の遂行は用意になったか。勤務過多の職員へは適切な対応がとられたか。	①職員の危機意識醸成に向けて西区消防署による研修を行い、大規模災害時の対応を学んだ。生徒に災害時に何ができるかの課題を課し、当事者意識を持てるよう工夫を図った。 ②業務分担の見直しに着手したグループや採点システムを取り入れて業務の軽減を図った職員が見られた。勤務超過職員の把握はできるが、部活動の活性化と相反するため是正は容易ではない。	①次年度は学校現場でどのような対策ができるかをテーマに職員研修を行いたい。生徒にも避難訓練だけでなく、様々なアプローチで当事者意識を持たせたい。 ②業務分担の偏り、集中に対しては声掛け、助け合いなど各グループで継続して取り組む必要がある。管理職は勤務超過職員に対して是正への働きかけを継続する。	・生徒の訓練、先生の研修などいろいろやっていただくのは重要と思うが、学校に人がいなくなった時間帯に地域で発災したことも想定してもらいたい。 ・ぜひ働き方改革を進めてほしい。不祥事が問題となっているが、油断から起こるというより、忙しくて余裕がないから起きてしまうと思う。	①生徒防災訓練や職員防災研修、横浜市との協定細則見直しのいずれも地域住民を考慮した取り組みであり、今後も配慮を深める必要がある。 ②ツールを活用した業務の軽減が進んだ。新たなシステムやツールを用いて軽減を加速させる。勤務過多の職員へ声掛けをしたが、是正は進められなかった。	①避難訓練等は自助・共助の課題解決に向けて取り組ませる。職員研修は専門家の知見が具体的な対応役立つよう企画する。 ②保護者連絡システムや電子黒板等の活用で業務軽減を図る。部活動指導等の勤務超過は引き続き顧問配置の工夫等で是正を図る。